

第1回奈良県子ども・子育て支援推進会議 概要

- 日 時：平成25年7月16日（火）15：30～17：00
- 場 所：奈良県庁5階第1会議室
- 議事概要：

<開会あいさつ>

○荒井会長

- ・子ども・子育て支援の幅を大きく広げて、県全体で検討して推進する体制を作らせていただきたい。
- ・子ども・子育てはよく保育所の待機児童解消というのが最優先と言われるが、それ以上にいろいろな奥深いテーマ・課題が内在しているようにも見える。その点を、奈良の事情もよく加味して、構造を解明して、奈良の処方箋を作っていくといった難しい課題に向かっていきたい。
- ・ご関係の皆様にはぜひ積極的なご意見を賜り、どのように実行体制を作っていくのかについてご指導賜りたい。

<定足数報告>・・・会長及び委員12名全員出席

<会議の運営について>・・・議事録の公開について決定

<会長職務代理者の選任>・・・会長より原田委員を指名

<事務局からの資料説明>・・・別添資料1、2、3、4、5

<荒井会長からの資料説明>・・・全国知事会議(2013年7月8日、9日)

資料11-2、12-1、12-2

<各委員等の主な意見>

【井上委員】

- ・ワーク・ライフ・バランスが重要だと感じている。制度を作ったとしても、なかなかそれを利用できる環境ではないということがよく言われている。
- ・育児について、色々漠然とした不安があり、子どもが生まれたとして、大丈夫なのかということをとくさん感じているところ。

○荒井会長

- ・奈良らしいワーク・ライフ・バランスというのがこの会議のメインテーマのひとつ。
- ・短時間正社員というのが、特に中小企業が多い奈良に定着するのだろうか。
- ・女性専用の職能学校のような女性の職をずっとフォローするような学校ができないものかと考えている。

【大西委員】

- ・県の特色というなかで、専業主婦率が最も高いことに非常に驚いた。
- ・私の周囲では待機児童が多いのかなと感じている。また、保育士さんが少ないのかなとも感じる。
- ・私の場合、子どもを産んで辞めたら正社員で仕事が見つかるかどうか不安だったので、育児休暇を取ったが、やはりまだ奈良県では再就職は厳しいのかなと感じる。

○荒井会長

- ・保育士の確保というのは課題で、子ども・子育て支援では、待機児童解消と保育士確保というのはいつも一番バッターで出てくる。各地域とも保育士確保は課題で、奈良県で保育士確保をどうすれば良いかを保育所の方たちと対応を始めている。また、保育士のキャリアパスを確立していかなくてはならない。
- ・奈良県では家にいったん入ると居心地が良いのか、あまり M 字カーブが上がってこない。今後奈良で就業が活性化しないと心配だ。
- ・看護師不足に関して、復職看護師の登録制度を法正化しようとする動きがある。また、復職を希望されるときにどこへ行くのかということに関して、女性専用ハローワークという発想ができないか。

【川端委員】

- ・運輸業にしても少子・高齢化でとてもドライバー不足が顕著である。
- ・最近、女性のドライバーさんが少し増えてきたが、やはりまだまだ中小企業はヒト・モノ・カネは全然足りない状況。
- ・地域の雇用を守るというところを中小企業がやっていきたいと思っている。
- ・そういったことで私たちも何か努力ができないかなという意味では、今後行政とタイアップして、何社かと共同で企業内保育や放課後児童クラブ等の企画ができればということのを要望として思っている。

○荒井会長

- ・求人の多いところをどのように確保するかというように、まず確立できたらと思っている。

【北岡委員】

- ・制度を作ってもなかなか簡単には動いていかないのではないかな。大きなところでなんとなく県民性に依るところがあるのかなという気がしている。
- ・在宅でも仕事ができるような形が望ましいと考えている。

○荒井会長

- ・女性の在宅就業というのは1つの大きなテーマ。
- ・ウーマノミクスというくらいなのでチャレンジしようというのが我々の精神。女性の戦力を活用しないと生きていけない企業も多いと思う。女性の戦力を活用しようと思っている企業と一緒に取り組んでいきたい。

【栗木委員】

- ・保育の主力戦力の元は女性。もともと我々の国というのは、どこかで介護・出産の部分で女性に甘えていた部分があると思う。女性の方の底力というか、粘り強さというか。そういう面をもっと社会に活かしていくべきであるし、またその活かせる場を提供するというのが行政の役割と思う。
- ・育児休業や産休は突然やってくるもの。当園でも2年前に3人の方が出産で産前・産後休暇、また育児休暇を取得された。それに対応するというに関して、

まだ制度が成熟しきっていない部分がある。

- ・保護者の育児休業が年度途中で終わる場合、すでに定員を超えている場合は年度途中で預かれない。これを何とか解消できる方法はないか。
- ・国全体を一律ではなく、地域に即応した施策が必要。

○荒井会長

- ・保育士の確保をどうするかということは課題なので、また保育所とも協議していきたい。
- ・サービス給付と現金給付がある。サービス給付は我々現場が知恵を絞らないといけない。

【島田委員】

- ・奈良は専業主婦がとても多くて県外に就業者が流れていることはかなり以前から言われていたのに、なぜもっと行政はデータ収集に力を入れなかったのか。
- ・企業があればそこに働く場があるので、県外に出て行くこともないし、男性もそこで働くことによって育児の参加率も高まる。保育所や放課後のお迎えもそんなに焦ることもない。子育て時間にもう少しゆとりが持てるのではないか。
- ・大企業の誘致を今後も進めていくとともに、構造的な改革も並行して力を入れていかななくてはいけない。

○荒井会長

- ・今までは奈良県は近隣に就職地があって、住宅地として良好なので、住宅さえできれば良いという県政だった。これが急激に高齢化して、年寄りが一挙に増えるというのがニュータウンの宿命。今は財政的には住民税が多いが、これが急激に落ちる。
- ・そういったことのしわ寄せが女性の就業の場所が遠いという形で発生している。
- ・奈良の女性は専業主婦が多い。アンケートをしたら、働きたいと言う女性はいたが、そのバリアは職場が遠いということ。奈良県の男性は遠くに働きに行くので帰宅時刻が遅い。
- ・住居環境が良いので同居家族もいる。自殺率が一番低いとか男性の健康寿命が長いとか良い面もある。
- ・住まいとしては良いが、働く場合、このバランスがどうかということが県政の基本的な課題。それが女性の就労として、子育て支援、ワーク・ライフ・バランスとしてはどうなのかということ。

【末松委員】

- ・根本的なところで、子どもの育ちとを考えた場合、やはりこれから子どもを産もうとしている方も含め、お母さんたちの心理的・精神的な子育て不安がものすごく強い。
- ・社会的養護の立場から言うと、そこが解決されてないので結局虐待の対応件数が増えていく。
- ・しかし今、奈良県の中では児童養護施設に入所してくる子どもというのは減っていて、どこの施設でも結構定員割れという状況になっている。虐待の対応件数の

数字で見るとこれだけ増えているなか、事実上家庭的養護の里親等にシフトしているというのはわかるが、それにしても少しかけ離れた状況になっているのはなぜかをもう少し検証したい。

- ・保育士の待遇改善はとても大事なところ。
- ・保育所の保育士のみならず社会的養護を支える保育士や、育ちにくい、発達のお子さんになるお子さんを対象にしている保育士など含めもう少しトータルに考えていただきたい。

○荒井会長

- ・県の南部の保育所は定員割れを起こしているが、北部の保育所には待機児童がいる。
- ・女性のワーク・ライフ・バランスは保育士だけではなく看護師等、女性のライフステージのキャリアパスをどんな風に育てていくか、というように考えたいと思うので、またその議論を発展させていきたい。

【福島委員】

- ・私がやっている読み聞かせのボランティアサークルは30代40代の若いお母さん世代が主にやっているが、正社員の人はいない。すごく優秀なメンバーが多く、昔はキャリアウーマンだったりバリバリ仕事できたが、今は働いていない。それでも社会に貢献したり、何かに繋がっていたくて、読み聞かせのボランティアをしているお母さんたち。
- ・正社員の仕事に就くというのはとても勇気が必要で、大変なことで、実際それが可能な企業も少ない。子どもを抱えては5時まで仕事ができなかったり、必ず土日出勤が必要な仕事だったり、最初から無理だったり。
- ・そういう風を選択していくと、パートとか本当にちょっとした仕事しかないのが現状。

○荒井会長

- ・女性の正社員が特に少ないというのが課題で、今、非正規雇用が増えていて、関西でも割と奈良県は高いほうで3番目くらい。京都、大阪、奈良が多い。
- ・奈良の非正規が多いのも分からないが、関西全体が多いというのも分からない。女性にとっては、さらに正社員になると逆に時間の制約、転勤の問題があり、とても続けられない。
- ・日本の雇用はジョブ契約ではなくメンバーシップ契約だと言われていて、これがグローバル化の中で晒されて打撃を受けている。
- ・非正社員なので研修をさせられないというのが、日本経済の人材能力が低下する最大の危機だということを知事会でも発言する知事もいるし、地域でもっと知恵を絞らないと。人を育てるのをどうするか、女性の人材育成というのがひとつの課題になるのでは、と思っている。

【谷口委員】

- ・子育て支援の話がずっとされているなかで、その支援イコール保育所または学童保育みたいなイメージがある。実は私学の幼稚園もとても子育て支援に力を入れている。現在、県内に43園の私学の幼稚園があるが、そのうち41の幼稚園は

預かり保育をしていて、実際には5時くらいまで、遅いところでは6時くらいまで預かり保育をしている。

- ・奈良県は幼稚園志向が強いところなので、私たちにも随分できることがあるのではないかと。
- ・今まで量的拡大ということで保育所をたくさん造られてきたが、既存の幼稚園や施設を上手に使うことによってすぐに解決する問題もあるのではないかと。
- ・子育て実態調査については、ニーズや不満ばかりを掘り出すのではなく、今、幸せ指数とか幸福度というような言葉があるが、奈良県の良いところも掘り出せるような実態調査にしていきたい。

○荒井会長

- ・実態調査は女性のワークライフバランスはどうなっているのか。先ほど島田委員が言われたように、構造的な問題が内在しているかどうかが発見できるように、上手くいくのかということ进行调查したい。

【原田委員】

- ・働く女性の問題も大事だが、現実に0～2歳くらいのお子さんのお母さんのほとんどは家にいて、すごくしんどがっている。それが子どもの育ちに非常に悪い。子どもの育ちという辺りにもう少し視点を置いた施策を実施してほしい。何の知識もなく一人で孤立して育児をしている方たちがほとんどだろう。その孤立して子育てしている親を救い出すというような、そんなもう少し具体的なところの解決策を出してほしいと思っている。

○荒井会長

- ・子育ての本論の話。田原本町が子育て中のお母さんとお子さんが集まるルームを作った。一緒に会話して、時々レクチャーがあったりして好評だということで、そういうことも試まれている。

【山縣委員】

- ・待機児童対策あるいは幼保一体化に関心が集まっていると思っているが、むしろ日本の課題はそこではなく、過疎地あるいは少子化地域の子育て支援の資源の確保にあると思っている。町村部の課題をしっかりと意識した計画を進めなくてはならないということ。
- ・奈良県で現在、幼保連携型認定こども園はやはり公立でしか進んでいないが、全国的に見ると民間幼稚園を中心に進んでいる。民間の保育所・幼稚園の対等な関係をなるべく維持しつつ、幼保連携型認定こども園にできるだけ誘導して、都市部では待機児童対策、過疎地では子育て支援の資源、と今この両方の側面を実現していく必要があるのではと感じている。

○荒井会長

- ・幼稚園、保育所も含めて公私の役割をどうするのか、また子育て支援の地域差をどうするのが研究課題。

【吉田委員】

- ・香芝市では実は待機児童はゼロ。いつも秋に少し発生して春には解決するという形だが、潜在的には多いと認識している。
- ・ワーク・ライフ・バランスを一番重点に置くべきではないか。地域限定社員だったり、短時間とは言わずに、例えば子育てしている者同士がワークシェアをしながら正社員という立場を守ることはできないか。
- ・実は、香芝市の女性の管理職はゼロだったが、今年の春に3人登用した。要はキャリアアップできる道筋ができていないこと。子どもを預ける、職場に復帰できる制度がある、そして将来しっかりキャリアアップできる、そういうビジョンがないとなかなか1つの良いサイクルになっていかないのではないか。
- ・幼保、さらには学童を含めて0歳から12歳までしっかり安心して子どもを預けられるような制度がないといけないのではないか。一元化というのは非常に大事。
- ・保育士の人材バンク化、これを何とかできないか。やはり能力があるのにリタイアされて今は職を持ってない方もいるので、これの掘り起こしをしていきたい。

○荒井会長

- ・保育士の人材バンクとかハローワークは試みたい。
- ・奈良県は女性の雇用は低い、障害者の雇用は全国で3位。大企業がやっているわけではなく、奈良県はいくつかの熱心な中小企業が数社あるだけで全国3位。奈良では障害者雇用全国1位を目指す、これは奈良県地場の中小企業の制度。
- ・奈良県の中小企業を応援して良い就業の条件を作り出してくれれば良くなっているのでは。

＜荒井会長閉会あいさつ＞

- ・初回の会議なので、県は何を考えてやっているのかということも多少思い込みも入れて説明しました。時間が不十分で申し訳なかったが、大変たくさんの意見をいただいて、心強く思った。
- ・今後ともまたそういう議論で是非、奈良県の女性の子ども・子育て支援、奈良らしいワーク・ライフ・バランスを確立するというより大きな目標に向かっての議論を25年、26年の2年にさせていただきたい。そのキックオフミーティングでしたが、今後ともよろしくお願ひしたい。